五月四日 三猿文庫

平市公報

第廿一號

昭和十四年十二月十五日

皇后陛下御歌及御下賜品傳達

十二月九日午前十時ヨリ市會議事堂ニ於テ左記軍人遺族ニ對シ市長ヨリ皇后陛下御歌及御下賜品ヲ傳達セラレタリ

故陸軍騎兵伍長　豊田勝一　遺族　豊田ツキ
故陸軍歩兵一等兵　菅野春雄　〃　菅野八重子

告示

告示第四五號

昭和十四年十一月二十二日午前十時平市役所議事堂ニ於テ平市陪審員候補者選定ノ爲抽籤ヲ執行ス

昭和十四年十一月十七日　平市長　青沼鋒太郎

告示第四六號

平市陪審員候補者左ノ通選定ス

昭和十四年十一月二十二日　平市長　青沼鋒太郎

記

平市字南町　齋藤繁次　平市大字上平窪　薄葉竹松
〃大字上平窪　木田源吉　〃　中平窪　松本源吉
〃　字下川原　長谷川德代　〃　字新川町　野本大藏
〃　字紺屋町　石橋德三郎　〃　字紺屋町　佐々木清隆
〃　新川町　吉田松吉　〃　三町目　坂本直吉
〃　堤ノ内　大塚武雄　〃　舊城跡　飯田近治
〃　三町目　鈴木義忠　〃　大字幕ノ内　吉田庄一
〃　田町　岩本重雄　（以上十五名選定）

告示第四七號

市參事會ノ議決ヲ經タル昭和十四年度平市歳入歳出追加更正豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十四年十一月三十日　平市長　青沼鋒太郎

歳入

一金五拾貳萬八千貳百四拾參圓　更生豫算高
一金五拾貳萬七千百五拾壹圓　既定豫算高

歳出

一金參拾貳萬參千九拾六圓　經常部更正豫算高
一金參拾貳萬參千貳百拾貳圓　同　既定豫算高
一金貳拾萬五千百四拾七圓　臨時部更正豫算高
一金貳拾萬參千九百參拾九圓　同　既定豫算高
經常部臨時部合計金五拾貳萬八千貳百四拾參圓
歳入出差引殘金ナシ　（別表略ス）

告示第四八號

市會ノ議決ヲ經タル昭和十四年度平市歳入歳出追加更正豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十四年十二月十六日　平市長　青沼鋒太郎

歳入

一金五拾貳萬八千參百拾六圓　追加更正豫算高
一金五拾貳萬八千貳百四拾參圓　既定豫算高

歳出

一金參拾貳萬壹千九百九拾壹圓　經常部追加更正豫算高
一金參拾貳萬參千九拾六圓　同　既定豫算高
一金貳拾萬六千參百貳拾五圓　臨時部追加更正豫算高
一金貳拾萬五千百四拾七圓　同　既定豫算高
經常部臨時部合計金五拾貳萬八千參百拾六圓
歳入出差引殘金ナシ　（別表略）

辭令

十一月三十日
退職ヲ命ス　書記補　吉田久壽

區長代理者異動

市内第十二區三十二區々長代理者左ノ通リ異動アリタリ

區名	就任者	退任者
第十二區（銀冶町）	大野松之助	小野菊彌
第三十二區（中鹽四波）	立澤和養	關場益一

十一月二十九日市參事會ニ於テ認定及推薦決定ス

選擧有權者

十一月五日ヨリ十九日迄平市役所ニ於テ縱覽ニ供シタル衆議院議員選擧有權者ハ前年ニ比シ十二人ヲ增シ又市會議員選擧有權者ハ前年ニ比シ三十七人ノ增加ヲ見タリ、而シテ各町（行政區）別有權者數左ノ如シ

（町名）（區分）	衆議院議員有權者數 本年登載	前年登載	比較	市會議員有權者數 本年登載	前年登載	比較
長橋町一區	一七一	一八〇	△八	一六五	一六六	△一
研、古二〃	二三五	二四一	△六	二三五	二三二	△七
紺屋町三〃	一六五	一六三	二	一五七	一五五	二
田町四〃	一〇一	一九三	八	一九二	一八四	九
一町目五〃	一〇一	一〇九	△八	一〇一	一〇三	△二
二町目六〃	九八	一〇六	△八	九八	九九	△一
三町目七〃	一一八	一一七	一	一一五	一一二	三
四町目八〃	一〇九	一〇〇	九	一〇一	九四	八
五町目九〃	一〇八	一一六	△八	一〇五	一一二	△七
新川町一〇〃	一八七	一八八	△一	一八〇	一八〇	—
材木町一一〃	一〇七	一〇九	△二	一九〇	一九六	△六
銀冶町一三〃	一三〇	一三六	四	一〇八	一〇三	一五
南町一三〃	一三四	一三七	一六	一三一	一三七	一六
久保町一四〃	一三三	一三六	△三	一三三	一三五	△八
胡摩澤一五〃	一四一	一四七	△六	一三二	一三七	△五
北白銀町一六〃	一八一	一八六	△四	一七一	一七一	—
仲間町一七〃	一八七	一八一	六	一六七	一六六	一
鎌田町一八〃	二三四	二三四	〇	二〇五	二〇〇	五

立町	一九	區	三〇五	二九七	八
堤之内	二〇	〃	五二	四九	三
南白銀町	三	〃	一六三	一六六	△三
大工町	二三	〃	六一	六三	△二
搔槌小路	二三	〃	一九九	一八八	一
舊城跡	二四	〃	二四五	二五六	△二
八幡小路	二五	〃	八七	八一	六
月見町	二六	〃	一四二	一三五	七
北目町	二七	〃	六七	七〇	△三
大町、十五町目	二八	〃	二三七	二三八	△二
上平窪	二九	〃	一四九	一五一	△二
中平窪	三〇	〃	一四〇	一五〇	△一〇
下平窪	三一	〃	一六九	一七四	△五
中鹽、四ツ波	三二	〃	一〇二	一〇四	△二
幕ノ内鯨岡、大室	三三	〃	七四	七六	△二
鐵道官舍		〃	七九	五三	二六
合計			五、三〇九	五、二九七	三

二六五	二	二九六	八
四四	一	四五	三
一五七	二	一五九	△三
六二	△二	六〇	△二
二九二	七	一八五	一
二三七	△八	二二九	△二
七二	二	七三	六
一二九	一	一三〇	七
七〇	△三	六七	△三
二二四	△七	二二七	△二
一五一	△四	一四七	△一
一四〇	△七	一四〇	△一〇
一六九	一	一六九	△五
一〇四	△二	一〇二	△二
七六	△二	七四	△二
四七	一六	五〇〇六	三七

△印ハ減ラ示ス

入營軍入歡送會

本年度平市入營軍人歡送會は左記次第に依り午前九時より縣社子鍬倉神社及縣社飯野八幡神社に於て奉告祭を執行、引續き午前十時より公會堂に於ける歡送會に移り開會の辭、宮城遥拜、默禱、國歌齊唱の後市長、平市聯合分會長、平市聯合青年團長、軍友會長、區長代表の送辭、來賓野崎市議長、正木高等女學校長、將校團平市分團長大輪喜代藏氏の祝辭、入營軍人總代絲川勝夫氏の答辭、市長の發聲にて萬歳を三唱し開宴に入り嚴肅盛大裡に正午閉會せり。市長の送辭左の如し。

次第

◉奉告祭

一、一同着席

次學式ノ辭

次修祓

次祝祠奏上

次玉串奉奠

◉歡送會

一、開會ノ辭

次宮城遥拜

次默禱

次國歌齊唱

次送辭

次祝辭

次入營軍人答辭

次萬歳

次開宴

次閉會

送辭

本日を卜し縣社子鍬倉神社並飯野八幡神社の大前に於て本年入營せらるべき諸君の武運長久を祈り其の壯途を祝福せんがため嚴肅なる祭儀を行ひ且清楚なる送別會を開催いたしまするこは洵に欣快とする所であります

今より帝國軍人たらんとする諸君の旺盛なる元氣と颯爽たる英姿とは實に至純至高なる民族意識の生める祖國愛の顯現でありまして歡喜措く能はざる次第であります。

抑も人道を尊重し正義を擁護し人類の平和と國際親善とに寄與するは大和民族の使命であると同時に、我建國の大精神でありまして建國悠々茲に三千年燦として之を證し日月と共に陸離たる光彩を萬邦に輝かして居るのであります。

友邦滿洲國は日滿不可分の關係を永遠に持續して鞏固たる獨立國として益健全なる發展を見るに至りましたが、今次の支那事變は東亞の秩序に一大暗影を投するに至りましたので我帝國は不動の國策に基き斷然起て破邪顯正の劍を執り聖戰茲に三年五閱月皇軍の嚮ふ所空に陸に將た海に連戰連勝破竹の勢を以て頑敵を擊滅し以つて今日偉大なる戰果を收めましたることは元より　天皇陛下の御稜威に依ることは白すも畏き極みでありますが諸君の先輩たる我忠勇無双の將士各位が日夜寒暑に耐へ有ゆる困苦欠乏を忍び力戰奮鬪の結果であります、又護國の華と散られたる幾多の勇士諸君の英靈に對し吾々國民は感謝感激措く能はざる所であります。

抑も今次の事變は暴支膺懲を契機として我帝國が肇國の主義理想たる八紘一宇の大精神に則り、東洋に於ける積年の禍根を除き東亞新秩序を建設して、日滿支三國一體の態勢を形成し東亞永遠の平和を確保し人類の福祉に寄與せんとする所謂興亞の聖業に外ならざることは申すまでもありませんが、然るに容共抗日を策し東亞の秩序を破壞せる蔣政權は今や名實共に地方政權に顚落して將に潰滅に瀕し新興支那中央政權の正に成立を見んとするは甚だ欣快とする所であります、然れども現下歐洲戰亂を控へ國際情勢は變轉極りなく帝國と英、米、ソ聯との國交調整の前途亦樂觀を許さざるものがあります、從て時局は一層重大性を加へ國民は益々擧國一致盡忠報國の赤誠を披瀝し堅忍持久の志操を堅持致しまして國家の總力を動員し以て難を克服して聖業の達成に邁進すべき秋であると深く信ずるのであります、斯の如き國家非常重大なる秋に際しまして諸君は選ばれて帝國の干城たる名譽を贏ち得ましたことは大日本帝國男子の本懷之に過ぐるものはないと信じます、之れ啻に諸君最大の名譽なるのみならず吾平市の光榮とするところであります、希くは益國家のため自重自愛健康に留意せられ帝國軍人たるの本分を完し神明の加護に依り盡忠報國の大義を致し以て　聖旨に副ひ奉らんことを切望して已まぬものであります、以上聊か微衷を陳へて送辭と致します。

和和十四年十一月二十七日

平市長從五位勳四等　青沼鉾太郎

荻州中將遺族慰問

荻州中將ニハ地方挨拶並軍人遺家族慰問ノ爲メ十四日來平ニ付市長、官公衙、學校長、名譽職員、在鄉軍人等出迎、平驛前ヨリ公會堂迄ノ沿道兩側ニハ各種團体、小、中男女學生堵列歡迎ノ意ヲ表ス、午前十時九分平驛着下車驛頭ニ急造セル演壇ニ登リテ挨拶ヲ述ベ青沼市長發聲ニテ萬歲ヲ三唱驛頭ヨリ公會堂前迄沿道出迎ノ人々ニ擧手ノ禮ヲ以テ挨拶ス、特別室ニテ少憩ノ後遺族ニ慰問ノ挨拶ヲ爲シ後平商業學校々庭ニ到リ磐中、平商兩生徒ノ分列式ニ臨ミ、再ビ公會堂ニ戻リ記念撮影ノ後日本間ニ於テ遺族有志一同ト會食懇談ヲナシ遺族ニハ菓子ヲ贈ラル、午後零時半ヨリ本館ニ於テ講演ヲナシ午後二時十五分發郡山ヘ向ヘタリ、本日講演ニハ市内一般附近町村ヨリ會集三千餘ノ多キニ達シ頗ル盛大ナリ。

平市ノ人口ト職業構成

昭和十四年十月一日現在ニ於ケル戸數人口ト世帯職業別現住人口職業別トヲ調査セルニ左ノ如クニヲ前年同期調査ト對比スルニ戸數一〇九戸、人口五四八人ヲ増加セリ

一、人口及世帯

性別	本籍人口	現住人口	世帯數
男	一二、四九三	一七、三三四	六、〇三〇
女	一二、二九九	一六、九七七	
計	二四、七九二	三四、三一一	一世帯平均人口
女百人ニ付男	—	一〇二、一〇	五、七〇

二、世帯職業別

種別	專業	兼業	計	各世帯百分率
農業	三七六	九二	四六八	七、七六
鑛業	四七	四	五一	八五
工業	八九三	五六	九四九	一五、七二
商業	一、六二二	一五一	一、七七三	二九、四〇
交通業	五〇九	六〇	五六九	九、四三
公務自由業	九七五	九八	一、〇七三	一七、八〇
家事	三六	—	三六	六一
其ノ他產業	七一八	二四	七四二	一二、三〇
無業	—	—	三六九	六、一三
合計	五、一七六	四八五	六、〇三〇	一〇〇、〇〇

三、現住人口職業別

種別	專業 男	專業 女	專業 計	兼業 男	兼業 女	兼業 計	計 男	計 女	計 計
農業	七四	七四	一、四九八	一七〇	一五二	三二二	九四五	八六六	一、八一〇
鑛業	五九	—	五九	五	—	五	六四	—	六四
工業	一、六七二	七八三	二、四五六	六七	三八	一〇五	一、七四〇	八二一	二、五六一
商業	三、一四一	一、〇六二	四、二〇三	七五	二八	一〇三	三、二二六	一、一九〇	四、四〇六
交通業	六五二	一二二	七六四	二八	三五	六三	六八〇	一四七	八二七
公務自由業	一、一五二	二九二	一、四四五	七一	三七	一〇八	一、二二三	三三〇	一、五五三
家事使用人	三六	二七	六三	—	六	六	三六	三三	六九
其他有業者	六〇八	二四八	八五六	一八	一〇	二八	六二六	二五八	八八四
無業	—	—	—	—	—	—	八、〇九五	三、三二二	三、一一七
計	八、〇九五	三、二四九	一一、三四四	四三四	四〇六	八四〇	一七、三三四	一六、九七七	三四、三一一

無業者ハ幼者老者不具廢疾者等ナリ

水栓柱保護ニ就テ

愈々寒さが日増に加はつて來ました。就ては例年の通り御使用の水栓柱殊に屋外設置の公私設共用栓を藁或は菰で結束包裝し凍氷を極力防いで下さい。一度凍ると容易に融けません。從つて使用水の故障となります。此冬は職工に手不足を來たして居るので結氷等に依る使用水の故障は各自に於て御手配を願ふより外に途が無いと思はれますから豫め御承知置下さいまして、水栓の保護に努めらるゝ樣望みます。

昭和十四年十二月十一日　　平市役所

トラホーム檢診施行

本年度「トラホーム」檢診は別紙日割及擔當醫師に依り施行せられたるに其結果檢診總人員五、三九六名に對し「トラホーム」と診定せられたるもの四四八名を算し之等患者に對しては治療票を交付せられ之が治療費に就

ては各眼科醫と協定半額に減額され又治療醫の選定は患者の任意に依ることゝせり而して全治に至る迄治療したるものには豫算の範圍内に於て補助することゝなれり、但し治療期間は昭和十五年三月末日限り打切り治療券を返納したるものに限られあるを以て紛失せざる様注意の上治療を受けられたし

十一月中文書收受發送數

	收受	發送	計
庶務	五〇八	二四〇	七四八
學務	一一一	三六七	四七五
産業	一八六	一九〇	三七六
兵事	二二八	二一九	四四七
戸籍	二九〇	三一一	六〇一
社會	一四七	一五三	三〇〇
工務	一一五	一二八	二四三
財務	一四五	一九〇	三三五
合計	一、七三〇	一、七九八	四、五二八

十一月中戸籍寄留件數

	本籍	非本籍	計
出生	八二	三〇	一一二
死亡	三六	一五	五一
婚姻	二六	一	二七
離婚	四	—	四
其他	五三	—	五三

謄抄本	二〇一	四六
閲覽		二四七
證明		三〇五
計		一二
住所寄留		一六
居所〃		三三三
出寄留		一〇一
計		一
寄留謄抄本		二三
閲覽		二二五
計		二四
		一
		二五

公益質屋事業成績（十一月分）

區分	貸付狀況	辨濟狀況
聯業		
勞働者	一八	二
俸給生活者	八	—
小工業者	七	一
小商人	一四	二
農業者	—	—
其他	三八	四
計	八五	九

質物種類	口數	點數
債券	八	二四
		五一

家具	點數	三三
裝身具	點數	一一〇
衣類	點數	一四三
	口數	六五
	點數	一八一
	口數	八六
計	額	六五八、三〇
金利子		五九、〇〇
		二四八
		一、三四

公益質屋八十一月八日ヨリ開始セリ

十一月中公會堂使用狀況

一使用回數		一八
內有料		一二
無料		四
市役所使用		二

使用料　八一、四〇

十二月ノ納稅

縣稅	家屋稅	十二月二十六日限
	營業稅	
	雜種稅	
	特別稅戶數割	
市稅	家屋稅附加稅	十二月二十六日限
	營業稅附加稅	
	雜種稅附加稅	

本月八二十八日迄市役所ニ於テ取扱ヒマスカラ二十九、三十日ハ七十七銀行（市金庫）ニテ納入シテ下サイ

◎……稅ヲ完納シテ新年ヲ迎ヘマセウ……◎

日用品小賣相場

（十一月末調）

品名	單位	價額
白米 一等	一キロ	三一〇
同 二等	〃	三〇五
同 三等	〃	三〇〇
白麥	〃	一九〇
平麥	〃	二四五
味噌（並）	一貫目	八五〇
醬油（並）	一升	五〇〇
清酒（並）	〃	一、五〇〇
木炭（楢丸）	一貫目	四六〇

品名	單位	價額
木炭（楢割）	一貫目	四四〇
同（雜丸）	〃	四三〇
砂糖（白）	百匁	一七五
同（赤）	〃	一五〇
同（黑）		—
豚肉（上）	百匁	六〇〇
同（並）	〃	四〇〇
牛肉（上）	〃	六〇〇
同（並）	〃	四〇〇

市參事會

十一月二十九日市參事會開會附議事件左ノ如シ

一、昭和十四年度平市歲入歲出追加更生豫算ノ件
一、土地買收ノ件
一、寄附採納ノ件
一、區長代理者辭任認定ノ件
一、區長代理者推薦ノ件
一、臨時手當支給ニ關スル件

市會

十二月十五日市會開會附議事件左ノ如

一、昭和十四年度平市歳入歳出追加更生豫算

一、市有土地處分ニ關スル件

一、市參事會議決事項報告ノ件

委員會

十一月二十一日　水道委員會

〃　二十七日　電柱移轉委員會

〃　二十九日　仝

十二月　一日　學務委員會

〃　三日　工業學校委員會

〃　五日　警防委員會

〃　十二日　土木委員會

〃　十五日　工業學校委員會

昭和十四年十二月十五日

發行所　平市役所

發行人　青沼鋒太郎

印刷者　福島縣平市長橋町三五番地　川崎文治

印刷所　福島縣平市長橋町三五番地　常磐毎日印刷株式會社　電話六三〇番